

# 沼津高専だより

第119号

令和3年7月8日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <https://www.numazu-ct.ac.jp/>



入学式



原付安全運転講習会



救命講習会



スポーツ大会

## 目次

## ☆新年度にあたって（年度方針等）

沼津高専生の時間	…………… 学校長	中村 聡	… 3
先人の英知に学び夢のある技術者に	…………… 副校長（総務主事）	小林隆志	… 3
あせらず、あわてず、あきらめず	…………… 校長補佐（教務主事）	稲津晃司	… 4
全学生揃ってのスタート	…………… 校長補佐（学生主事）	小林美学	… 4
本年度の寮運営方針について	…………… 校長補佐（寮務主事）	遠山和之	… 5
研究主事が新設されました	…………… 校長補佐（研究主事）	高野明夫	… 5
専攻科の近況	…………… 校長補佐（専攻科長）	芳野恭士	… 6
「留年」を考える	…………… 学生生活支援室長	小林美恵子	… 7
初心を貫いて	…………… 機械工学科長	新富雅仁	… 7
未来の社会システムを担う電気電子工学科	…………… 電気電子工学科長	大津孝佳	… 8
With コロナの 2 年目	…………… 電子制御工学科長	牛丸真司	… 8
「何をしたいか」を明確にせよ	…………… 制御情報工学科長	宮下真信	… 9
新年度を迎えて	…………… 物質工学科長	竹口昌之	… 9
教養科 2021	…………… 教養科長	佐藤崇徳	… 10

## ☆人事異動について

令和 3 年度 人事異動	……………		… 10
令和 3 年度 校務分掌	……………		… 11
令和 3 年度 クラブ・同好会顧問教員	……………		… 12

## ☆着任挨拶

着任にあたって	…………… 電子制御工学科	熊谷雅美	… 13
沼津高専における私の意気込み	…………… 教養科	中村 聡	… 13

## ☆新入生から（入学にあたり）

目標と抱負	…………… 電気電子工学科 1 年	村松慧思	… 14
寮に入って学んだこと	…………… 電子制御工学科 1 年	中村 權	… 14
不安と期待	…………… 制御情報工学科 1 年	細谷真唯子	… 14

## ☆留学生から

モンゴルから来ました	…………… 物質工学科 3 年	ガバーツェデン アルタンズル	… 15
------------	-----------------	----------------	------

## ☆寮生会活動について

今年度の寮は	…………… 機械工学科 4 年 寮長	細谷優華	… 15
--------	--------------------	------	------

## ☆教育後援会から

成長を見守っていきましょう	…………… 教育後援会会長	小澤 勉	… 16
---------------	---------------	------	------

## ☆三つのポリシー

	……………		… 16
--	-------	--	------

## ☆お知らせ

令和 3 年度沼津高専 1 日体験入学のお知らせ	……………		… 20
令和 3 年度（8 月～3 月）行事予定表	……………		… 21

## 新年度にあたって (年度方針等)



### 沼津高専生の時間

学校長  
中村 聡

今年も本科・専攻科合わせて236名の新生入生・編入生をお迎えし、新年度のスタートを切りました。一方で、新型コロナウイルス感染防止の観点から入寮者を制限せざるを得ず、一時的に“低学年全寮制”という本校の教育方針を取り崩すことになりました。また、多くの学生に長時間の自宅通学をお願いすることになり、たいへん申し訳なく思います。それでも学生全員が登校しての対面授業は、教職員にとってもうれしいものです。校長室の窓から大勢の学生諸君が行き来するキャンパスを見るにつけ、「これこそが本来の学校の景色だな」としみじみ感じ入っています。

皆さん、『ゾウの時間ネズミの時間』（本川達雄・著、中公新書）という本をご存じでしょうか。1992年に出版され、またたく間にベストセラーとなった本です。著者の本川先生は“歌う生物学者”としても有名で、私の前職における大先輩です。その本にはこんなことが書かれています。動物はサイズが違うと機敏さが違い、寿命が違い、総じて時間の流れる速さが違って来る。ところが、

一生の間に心臓が打つ鼓動の総数や体重あたりの総エネルギー使用量は、サイズによらず同じとのこと。動物のもつ“物理的な時間”はサイズによって異なるが、“生理学的な時間”はサイズによらず一定なのだそうです。

ゾウは人間よりもゆっくりと行動し、ネズミは人間よりも機敏に行動します。要するに、ゾウにはゾウの時間の流れ、ネズミにはネズミの時間の流れ、そして人間には人間の時間の流れがあるのです。動物はすべてその動物特有の生理的時間の流れの中で生きています。どれが良いとか悪いとかはありません。皆さんはこれまで考えてみたことがないかもしれませんが、時間の流れが変われば世界観も変わるのです。人間の中には“のんびりな人”も“せっかちな人”もいます。また、沼津高専生の皆さんはきっと同世代の高校生よりも忙しい毎日を送られていることでしょう。そんな皆さん、ときにはゾウやネズミの時間軸で自分自身の行動を見直してみませんか。そうすることで、今までとは別の世界が見えてきます。これまで苦手と思っていた人との距離が縮まるかもしれませんし、これまで常識だと思っていたことの“危うさ”に気づくかもしれません。そして、自らの心を物理的時間の束縛から解き放つことで、きっと新しい自分を発見できると思います。“人生百年”の時代です。いろいろな自分を発見し、いろいろな自分と向き合い、これからの人生をより充実したものにしてください。



### 先人の英知に学び 夢のある技術者に

副校長（総務主事）  
小林 隆志

今年度は新入学生を迎えて入学式を行うことができ、学生の皆さんが登校しての学校生活が始まり、活気が溢れる学校本来の姿が戻ってきました。昨年度は新型コロナウイルスのために分割登校での授業が行われ、学校内が寂しく感じられていましたので、あたりまえと思っていた学生の皆さん全員が登校して学校生活を送ることができることのありがたさを実感しています。今年度は学生の皆さんがのびのびと授業や課外活動に取り組めることを願っています。昨年度パンデミックというこれまでに経験したことのない緊急事態に、教育後援会、同窓会からは、学生、学校に対して迅速に大変ありがたいご支援をいただきました。卒業生の皆さまから後輩と母校に思いを寄せていただき、改めて同窓会との絆の強さを感じました。ワクチン接種も始まりましたが、感染症の心

配がなくなるまでにはしばらく時間がかかるようです。今年度も引き続き、学生の皆さん、学校関係者の生命・健康と生活を守るという方針に従い、中村校長以下、6名の主事・校長補佐、事務部長、総務課長、学生課長をメンバーとするリスク管理室で対応を検討してまいります。今年度からは研究力向上のために研究主事がおかれ

ました。近年、技術革新が急速に進む一方、環境問題に直面し、経済成長重視の社会から持続的な発展可能な社会の実現に向けて大きな転換期を迎えています。問題を解決する方法は一つではありません。例えば自動車に関しては、電気自動車（EV）が注目を集めていますが、燃料電池車（FCV）、水素や新燃料（e-fuel）を使用したエンジン車などの技術開発も行われています。将来、別の新しい技術が出てくるかもしれません。どんな技術が主流になるかの予測は困難です。こんな転換期にあるからこそ、学生の皆さんは、専門分野の基礎を修得するとともに、柔軟な思考力、既存の考え方にとらわれない発想力、感性を養ってください。また、先人に学ぶことも大切です。先人の努力にも目を向けながら、夢のある将来の技術者を目指していただきたいと思います。活躍の場は大きく広

がっています。技術の進展に期待を寄せる一方で、技術者の英知の詰まった昭和の時代のガソリンエンジンの自動車・バイクが博物館でしか見られない時代になりつつあることには一抹のさみしさも感じています。

学校としては、学校運営全般に関して自己点検を行い



## あせらず、あわてず、あきらめず

校長補佐（教務主事）  
稲津 晃 司

昨年来の新型コロナウイルス感染拡大は依然として終息が見込まれない状況が続いていますが、今年度は学生のみなさん登校の下、授業を実施することができています。マスクの着用、手指の消毒、3つの密の回避といった感染防止の基本対策を始めとする注意が常に必要で、2年前までのように行かないことは多く大変かと思えます。それでも、マスク姿であるにせよ学生のみなさんに対面して共に学ぶことができるのは本当に嬉しく、ありがたいとさえ感じています。学生のみなさんも仲間と一緒にいると元気が出ていることと思えます。勢い、あれもやりたい、これもやりたい、これもいいだろうと思うことも出てくるでしょう。昨年度の大きな制約の下、学修面で十分にできなかったことはあるでしょうが、学生のみなさんも教職員も安全が第一です。あせらずに、基本対策の徹底に留意して学修をはじめ、学校生活にあたってほしいと思います。

一方で、最近の状況から伺えるように、新型コロナウイルス感染拡大が急に進むことにも備えておかなければ

ながら、高専における技術者教育を進化させていきたいと考えています。

保護者の皆さまには引き続きご理解とご支援をお願いいたします。

なりません。学生のみなさんには、登校することができず、遠隔方式での学修となっても、あわてずに学校や教員からの連絡をよく確認する心づもりをもってほしいと思います。昨年度の経験を活かして教職員はICTを活用して、学生のみなさんに効果的な学修をしてもらうことができるようになっていきますし、2年生以上のみなさんはPC等の利用、TeamsやMoodleの活用に習熟しています。1年生のみなさんも入学から数ヶ月を経て高専での学修のペースをつかみつつあると思います。日頃の学修と同様にあわてずに、確認することが肝要です。勝手な思い込みによる誤りを回避することができます。

こう考えると、これまでのことや現状の維持までが望めないように感じてしまっていますが、せっかく習熟してきたICT活用、より良い、進んだ学修を望まない手はありません。学生のみなさんが学修内容のより良い理解をあきらめずに、復習をはじめ、情報の整理やその活用に工夫をこらしてくれることを期待します。学校も、教育改善のためのデータ収集・分析・報告を実践する教学IR（Institutional Research）への取り組みを新しく進めていきます。この取り組みは、本校学生のみなさんが、現在すでに始まっている予測困難な時代でも活躍できる自律的な技術者になれるよう、本校の教育を学修者本位の教育に転換するための施策のひとつです。容易なことではありませんが、教職員は本校の教育をより良くしていくことをあきらめずに全力を尽くしていきます。



## 全学生揃ってのスタート

校長補佐（学生主事）  
小林 美学

令和3年度は予定通り、全学生と一緒に新年度をスタートさせることができました。例年では当たり前のことですが、昨年度は学生がいな校舎で新年度を迎えたことを思うと感慨深いものでした。今年度も新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら、学生が安心して学校生活を送れるように努めていきたいと思えます。

昨年度は制限が多かった課外活動については、県の警戒レベルの引き上げに伴って公式試合以外の対外試合を禁止することになりましたが、この原稿を書いている時点では、感染対策を施しながら活動を継続しています。東海地区高専大会も昨年度は早々に中止が決まってい

ましたが、今年度は開催3週間前に、地域の状況等を見ながら競技ごとに開催の可否を判断することになっています。実施の場合も無観客となりますが、様々な制限の中でも工夫しながら活動を続けてきた学生達に活躍の場が得られるよう、願っています。

学生会も積極的に活動しています。5月には教室からの遠隔形式で学生総会が開かれ、今年度の予算案などが承認されました。学生総会の後のスポーツ大会では、密を避けるために1～3年生は教室でのレクリエーション、体育の授業のない4、5年生は校内4箇所に分散してのクラス内対抗のドッジボールが行われ、学生達のはつらつとした笑顔が見られました。10月末の高専祭についても、高専祭実行委員が準備を進めています。分割で行われた昨年度の様子を参考にしながらも、今年度の状況にあわせた新しい企画や方法を生み出してくれるものと期待しています。

交通関係については4月に交通指導を行い、新規バイク通学者を対象にした原付安全運転講習会も実施しまし

た。就職支援に関しては、昨年度3月に就職祭とメーク講座を行い、現在は就職模擬面接を行っています。昨年度の就職希望者に対する就職率は本科99%、専攻科100%、求人倍率は本科29倍、専攻科41倍でした。学生生活支援についても教員、看護師の他、精神科医1名、カウンセラー3名、ソーシャルワーカー1名、学生支援コーディネーター1名の体制を整えています。今年度は教育後援

会学生部会が、カウンセラーの先生を紹介する企画を予定してくださっています。そちらも楽しみにしています。

新型コロナウイルス感染症の今後の状況については予断を許さないところですが、引き続き、本校の教育活動について保護者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。



## 本年度の寮運営方針 について

校長補佐（寮務主事）  
**遠山 和之**

昨年度に引き続き校長補佐（寮務主事）を務めることになりました遠山と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本年度は新型コロナウイルスの感染予防策を講じながらの開寮で寮生数は例年より少ない406名です。昨年度のように分割開寮ではなく、4月から全面開寮となっています。本来ならば、1・2年生全寮制で多くの新入寮生を迎えての開寮となるはずですが、新入生も含めて自宅から通学可能な学生には入寮をご辞退頂き、2年生以上の遠方の学生の入寮にご協力頂きました。改めてご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。今秋に新寮が完成しますが、これを含めても400名程度の学生の受け入れが限度であり、この状況は新型コロナウイルス感染症が収束するまで続きます。ご理解とご協力をお願いします。

本年度の寮運営方針は、(1)寮生の安全（点呼に関する規則違反、安全設備の不適切な使用、危険行為）を最優先に考え、犯罪、もしくは、犯罪に準ずる行為（いじめ、暴力行為、異性寮侵入、公共物の持ち帰り・不適切使用、周辺住宅への出入り）の防止に重点をおく、(2)寮生・保護者への連絡の徹底を図る、(3)新型コロナウイルス感染症予防策の徹底を図る、の3点です。(1)と(3)は昨年度から継続している運営方針で、(2)が新たに加えられた運営方針です。昨年度、閉寮時の荷物の持ち帰りや再入寮について、多くの保護者から問い合わせがありました。この反省に立って、本年度の寮運営方針に寮生・保護者へ

の連絡の徹底を図るという方針を加えた次第です。特に再入寮については、説明会や申請時期の周知を図ります。新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、1・2年生についても、当面、自宅通学可能な方に自宅通学をお願いし、3年生以上の学生については、かなり遠方から来ている学生でも昨年度同様に入寮を断ることがありますことをご承知おきください。1年生向けの再入寮説明会は10月26日(火)に、2年生以上の再入寮説明会は10月28日(木)にいずれもTeamsで実施します。この説明会は専攻科生を含めて全学生が対象です。

3月で寮監の合田先生が退職されたため、本年度は5名の寮務主事補の先生が、寮監代行として平日の朝と夕方に入ります。土日祭日の寮生の怪我や急病の対応に限定されますが、日直業務を行う先生が寮監室に入ります。

本年度の寮務主事補は、青山先生、芳賀先生、駒先生、永禮先生、大沼先生、寮務委員は、鈴木尚人先生、山之内先生、香川先生、大久保先生、古川先生、中村先生です。寮長はM4細谷さん、副寮長はE4伊藤さんとC4今北さんです。寮長の細谷さんは、沼津高専学寮初の女性寮長です。様々な制約がある中で、どのような舵取りをしてくれるのか、とても楽しみです。4月4日の入寮式から始まり、開寮式、役場回り・花見、寮生総会、防災訓練等の行事が日程通り行われました。5月15日(土)には寮祭前日祭、翌16日(日)には寮祭があります。感染防止策を講じながらの寮祭となるため、保護者の皆様の参加もお断りしなければならない状況ですが、天候に恵まれればと思っている次第です。

保護者の皆様にはこのような非常時にも関わらず学寮運営にご理解とご協力を頂きありがとうございます。また、寮のWi-Fi環境を整備頂いた教育後援会の皆様にも心よりお礼申し上げます。今年1年、寮生が安全に過ごせますよう尽力しますので引き続きのご支援をお願いします。



## 研究主事が新設された

校長補佐（研究主事）  
**高野 明夫**

校長補佐（研究主事）の高野です。研究主事は、研究支援に関する業務を強化するために、本年度から新設さ

れました。本年度は地域創生テクノセンター長の高野が兼務しています。

研究主事の新設に伴い、従来の地域連携・研究支援委員会が廃止され、新たに地域創生テクノセンター運営委員会と研究委員会が新設されました。研究委員会の初代メンバーは、委員長の高野ほか、副主事の教養科住吉光介教授、委員の電気電子工学科大澤友克准教授、同じく委員の制御情報工学科横山直幸准教授、総務課長の5名です。

研究主事の業務には、科学研究補助金（科研費）、共同・受託研究、知的財産の管理、研究・技術シーズ集の発行、校長リーダーシップ経費の検討、競争的資金の獲得（高専機構GEAR5.0、JSTジュニアドクター育成塾など）などがあります。ここでは紙面の都合で次の3点について紹介させていただきます。1点目は科研費採択数の増加、2点目は共同研究や受託研究の推進、3点目は競争的資金の獲得です。

まず、科研費についてです。昨年度は28件申請し、採択されたのが奨励研究の1件のみでした。今年は採択率アップのため、科研費申請に備えて、学内の校長リーダーシップ教育研究奨励費を教員にもっと活用していただけるよう、科研費等スタートアップ研究の申請書ページ数の大幅削減、原則書類のみによる審査、萌芽的研究の新設などを行いました。萌芽的研究は、すぐに科研費申請にはつながらないものの、新たな研究立ち上げを支援す

るものです。

次に、共同研究と受託研究についてです。令和2年度の件数は合計25件でした。前年度と前々年度がそれぞれ22件、24件でしたので、この3年ほどは20数件で推移しています。しかし、受入額が減少傾向にありますので、件数の増加を図りたいと思っています。

最後に、競争的資金の獲得についてです。今年度に入って、科学技術振興機構の「ジュニアドクター育成塾」という企画に応募いたしました。これは学校の設備等を利用して研究力のある小中学生を発掘育成するというものです。企画が認められますと資金を学校の設備更新等にも役立てることができます。この他にも、順次、いろいろな外部資金獲得につながる募集に応募していきたいと考えています。

今後とも、研究委員会の活動に、皆様のご理解とご支援をいただけますよう、よろしく願いいたします。



## 専攻科の近況

校長補佐（専攻科長）  
芳野 恭 士

今年度専攻科長を務めます芳野です。よろしくお願いいたします。昨年度と同様、コロナ感染症の流行が続く中での始業となりましたが、5月現在の時点では専攻科は本科とともに対面での通常授業を行っています。遠隔授業については、昨年度の経験をもとにいつでも実施できる体制を準備していますので、今後も社会情勢に合わせた学びの環境を学生に提供していきたいと思っています。

さて、本校専攻科は4月に新入生27名を迎えて、1、2年生を合わせて55名の学生が環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コースの3コースから成る総合システム工学専攻に在籍しています。専攻科の各コースの授業では、本科での出身学科が異なる学生たちが一緒に学習を行っています。ただし、本科の出身学科はそれぞれの学生の得意専門分野であり、専攻科修了時に大学改革支援・学位授与機構から授与される学位である学士（工学）における申請手続きや修了後の進路を考える際に活用されます。本校の専攻科は、大学改革支援・学位授与機構による特例適用認定専攻科であり、研究指導の認定を受けた28名の教員のもとで専攻科研究を行った学生は、修了時に無試験で学位を授与されます。この3月には25名の学生が修了し、学位を授与されました。彼らの進路は、就職が15名、大学院への進学が10名で、コロナ感染症の流行の中ではありましたが、無事全員が希望の進路に進むことができました。今年度の2年生は、就職と進学の希望者がほぼ半分

ずつであり、夏季に入学試験が多い進学希望者に先駆けて就職希望者の活動がすでに始まっています。

1年生については、例年と同様に10月から1月までの長期インターンシップを予定しています。昨年度の1年生も、コロナ感染症の流行の中、16の企業と4の大学・研究機関で遠隔指導を交えながら長期インターンシップを実施することができました。今年度も安全に配慮しながらではありますが、自分の進路を考える上で有効な長期インターンシップに積極的に取り組んでほしいと思います。

本校専攻科の教育課程は、本科の4、5年生の教育課程とともに日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を平成16年から受けています。JABEE認定校の修了生は修習技術者となります。このJABEEの認定継続審査が、本校では今年から来年にかけて行われる予定になっています。専攻科生のみなさんには、是非、専攻科の特徴ある教育課程で技術者としての腕を磨いてほしいと思います。今後とも、本校専攻科の教育活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。





## 「留年」を考える

学生生活支援室長  
小林 美恵子

学生の悩みの上位に常にランクインしているのは「学業不振」です。勉強についていけない、どう勉強してよいかわからない、という不安は学生につきものと言ってよいでしょう。そこには、原級留置、いわゆる「留年」への不安という感情も大きく影を落としています。

もちろん、順調に進級できればそれに越したことはないでしょう。しかしながら、一定レベルに達しないと進級できないということは、裏返せば、進級した学生は全科目において漏れのない学びをクリアしていると保証されるわけで、これこそが高等教育機関の厳しさであり、高専ブランドというものです。その昔、高等学校の普通科に在籍していた私は、絶望的に理解できない科目を抱えたまま卒業を許されました。うまく逃げ切ったように見えますが、この部分の欠損は、生活に仕事に、今も悪影響を残しています。高専の専門科目の難しさは難関高校をゆうにしのぐレベルと言われています。全科目で基準レベルをクリアするのはどれほどたいへんなことか。黙々とこの学びに身を捧げている学生に対し、尊敬の思いを持たずにはられません。ご家庭でもご理解のうえ、どうぞ温かいお励ましをいただければありがたく存じます。

勉強がうまくいかないことは、つらいことです。自分一人が孤島に置き去りにされているかのようなさびしさに苛まれます。周りの友人たちがみな輝いて見え、そうならない自分をどんどん否定してしまいかねないものです。が、学生の皆さんは、ほかでもない自分のために、ここは一念発起してみましよう。こういうときほど、誰かに声をかけてみてください。まずは友達に打ち明けるのもよし、もちろん先生に相談できればもっともよし、そして学生生活支援室も学業の悩みに寄り添う用意があります。保護者の方からのご相談にも応じていますので、必要な場合はぜひご利用ください。

学生の皆さんは将来「高専卒業生」と呼ばれることとなります。全国には同じ仲間や先輩方が大勢いらっしゃいます。「留年もしたことないなんて、高専生じゃないぞ」などとおっしゃる先輩も少なくありません。どんなあなたでも、高専生のネットワークが待っていてくれます。元気を出して、苦しんでいるあの科目に取り組み直してみませんか。心配するばかりのグレーの毎日から脱出したいと思うなら、まずは立ち上がってみましよう。支援室も、応援しています。



## 初心を貫いて

機械工学科長  
新 富 雅 仁

昨年度より機械工学科の学科長を務めております新富です。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は残念ながら続いており、今も学校生活にいろいろな制約がなされていますが、それでもクラス全員が登校しての対面授業を行えるなど、通常に近い状態で新年度がスタートしています。「コロナ禍」という状況に慣れてしまい、ともすると気が緩みがちになりますが、私自身も気を引き締めていきたいと思えます。

機械工学科ではこの3月に38名の卒業生を送り出すことができ、4月には新たに41名の新入生を迎えることができました。新入生のみなさん、入学おめでとうございます。皆さんが思い描いている夢の実現のため、ぜひ努力を続けてもらいたいと思えます。我々教員もその手助

けができればと考えています。

さて、学科長を務めますと、年度当初に新入生に向けて学科で学ぶことや卒業後の進路などについて話をする機会があります。話の内容を考える際に、私が新入生のみなさんと同じ年齢の頃は何を考えていただろうと思いついてみると、機械工学に興味があったことは間違いないのですが、機械工学の道に進む決断はやはりできていませんでした。本校の学生は皆その決断をした人たちなのだと思いき、改めて尊敬の念を抱いています。

本年度は、M1 渡邊（村松）、M2 佐藤誠（金）、M3 三谷、M4 山中、M5 井上の各教員が担任を務めます（カッコ内は機械工学科所属の副担任）。また、就職指導には永禮教員が当たっております（進学指導はM5担任が担当）。どんなに小さなことでも構いませんので、気になることがあれば相談してください。

また、昨年度末で定年退職されました西田教員は、本年度は嘱託教授として機械工学科の運営に携わって頂いています。機械工学科は合計11名の教員で学科を運営して参ります。みなさまのご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 未来の社会システムを担う電気電子工学科

電気電子工学科長  
大津 孝佳

電気電子工学科学科長の津孝佳です。電気電子工学科は教員11名、技術職員1名、学生200名からなる学科です。1年生副担任山之内亘教員、2年生副担任眞鍋保彦教員、3年生担任高矢昌紀教員、4年生担任西村賢治教員、5年生担任嶋直樹教員です。更に、就職指導望月孔二教員、進学指導野毛悟教員、教務関連小村元憲教員、研究主事高野明夫教員、研究主事補大澤友克教員、技術支援原田龍一職員が一丸となって、Society 5.0を担う未来産業人材育成を目指します。学生達が担う未来社会では、電気自動車の自動運転交通システム、太陽光発電などを含む次世代電力供給システム、ドローンを始めとする運送システムなど、電力と通信のスキルが求められます。電気電子工学科は、その基礎となる電気磁気学、電気電子回路から電気材料、電力工学などの知識とスキル、更に、通信やプログラミングなどの制御技術を融合させ、未来の社会システムを担う学科なのです。その為、未来に向けたスピード感を大切にしています。教職員と学生間のスムーズな連絡手段として、学科内コミュニケーションツールG Suiteを活用し、全学生と全教員がインターネットで繋がっています。電気電子工学科には3つの強みがあります。1つは、普及型教育の実践として、基礎学力の充実を目指した「Eスタ（E科スタディープロジェ

クト）」です。上級生が企画・立案・実施し、下級生への学びを伝えていくものです。教えて学ぶ中での成長もこのプロジェクトの良さです。2つめは、強化型教育の実践として、3年生「社会と技術」、4年生「PBL」、5年生「卒業研究」に繋がる各教員の専門技術教育、情報セキュリティ教育、プログラム教育、知的財産教育、共同教育などにより、Society5.0社会に必要な情報システムを守る「尖った人材育成」を目指します。3つめが地域との連携教育です。富士山や駿河湾、自動車産業など地域特性を活かし、出前授業やKV-BIKE（電池自転車）・環境エネルギー教育など、地域の幼・小・中学校との連携を行っています。本年度も宜しくお願い致します。



## With コロナの2年目

電子制御工学科長  
牛丸 真司

昨年度は新型コロナウイルスのため、1年前の高専だより（第117号）の挨拶で記したように「手探りでのスタート」となりました。原稿を書いた頃はまだ授業が始まっておらず、オンライン授業の準備を始めていることなどを紹介させて頂きました。今年度は入寮について一部屋一人の制約があるものの、授業に関しては4月の始めから通常どおりスタートさせました。人と人が接する場でのマスク着用の徹底、適切な換気、手指のアルコール消毒などの感染対策により感染リスクを大きく下げることが可能であること、また10代の若年層にはこのウイルスは感染し難く、重症化リスクも低いことなどの知見が得られたからです。また、今後分割登校や遠隔授業への移行が必要になるような事態になったとしても、この

1年間で実施してきた経験やリソースの蓄積があり、相応の対応が可能だと思います。ワクチン接種の遅れ、変異株の拡大などまだまだ油断できる状況ではありませんが、恐れ過ぎずにwithコロナの2年目を乗り切りたいと思います。

さて、今年度はこの4月に高専機構の交流人事で八戸高専から熊谷雅美先生を迎え、11名体制での学科運営を行っています。熊谷先生には4、5年の工学実験と今年度からスタートする4年の応用物理Ⅱ、および就職指導の一部を担当して頂いています。担任は5年が鄭萬溶先生、4年が青木悠祐先生、3年鈴木静男先生です。2年と1年の担任は教養科の平田先生と端川先生で、学科からは副担任として2年に香川真人先生、1年に川上誠先生を配しています。また、就職担当は学科長と兼任になりますが私が担当し、4年生の電子機械設計製作は青木先生が主担当となっています。

引き続きコロナ禍ではありますが、その中でも出来る限り充実した学習・研究環境を提供できるよう、学科教員一同全力でサポートしますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。





## 「何をしたいか」を 明確にせよ

制御情報工学科長  
宮下 真信

前任の長縄先生の後を引き継いで、今年度から学科長を拝命しました。ご協力をよろしくお願いいたします。昨年度末に長谷先生、長縄先生の2名が定年退職されましたが、長縄先生には雇用延長という形で引き続き学科教員として在職いただいております。今年度は9名体制で学科を運営していきます。

高専をはじめとする高等教育機関は、知識を身につける「知育」、知識に基づいて知恵を創出する「徳育」、実験・演習や創造設計などで実践力を身につける「体育」から成り立っています。こうした教育課程を通して、自分が目指す未来を考えていただきたいと思っております。これまでは漠然と、プログラマーなどのエンジニアになりたいと思っていたかもしれませんが、どのようなエンジニ

アになりたいか？ということを考えてください。つまり、「何になりたいか」ではなく「何をしたいか」ということを明確にさせていただきたいと思っております。高専は、大学2年相当までは受験することなく進級できます。高専は実践教育に力を入れているので、課題やレポートが多いと思いますが、ある意味ではプロコン、ロボコンといった単位にはならないことにも挑戦できる自由とチャンスを得ているのです。特に就職や進学を考える4年の学生は、インターンシップに参加したり、新聞に毎日目を通すことで、現社会がどのような人財を求めているのかを肌で感じ取って欲しいと思っております。こうして社会に目を向けることで、創出した知恵を活かす場がどこにあるのかという社会実装の側面も養うことができると思っております。また、「何をしたいか」を明確にすることで、その実現のために、学生時代にしておくべきことも見えてくると思っております。「できない理由」を述べるのではなく、「どうしたら実現できるのか」を考えて、自分自身への投資を怠らないでください。そして、「沼津高専」という肩書をとっても尚且つ輝く個人になっていただきたいと願っております。



## 新年度を迎えて

物質工学科長  
竹口 昌之

昨年度に引き続き学科長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

本年度は新たな学生として40名の新入生、第3学年にモンゴル国から留学生1名、第4学年に編入学生1名を迎えました。教員は昨年同様、11名で学科を運営します。担任は本誌にある校務分掌の通りでございますが、5年生については副担任兼就職担当として大川教授が担任とともに卒業に向けたキャリア教育を支援します。また、本年度末より山根准教授がペンシルベニア州立大学に在外研究員として派遣されます。

さて、皆様はフロッピーディスク（FD）をご存じでしょうか。私が学生であった30年前、電子情報の記録媒体は容量1.44MBのFDでした。先日、学生がFDを見たことがないことを知りました。現在の携帯端末の容量が64GBとすると、現在の学生はFD4万枚以上を常に持ち歩いていることになります。私の学生時代にはFD1枚でレポートを保存できていたことを考えると、デジタルネイティブ世代と言われる現代の学生が非常に多くの情報に対応しているといえます。

先日読んだ本（『遅刻してくれてありがとう』トーマス・フリードマン著）に「立ち止まることを学びたい」という一節がありました。社会のめまぐるしい変化の中

で“考える”時間すら失っており、「思考のための一時停止」により思い込みの洗い直しが可能となるという内容でした。コロナ禍において、図らずも社会活動の一時停止が起これ、これまでの教育内容と方法を見直す機会となりました。遠隔授業を通して、デジタルネイティブ世代の学生に技術の面白さ（ワクワク）をこれまでと同じ方法では伝えることができないことを実感しました。

本年度は昨年同様遠隔時に培った教育スキルを対面での講義に活用しつつ、日々改善に向けて取り組んでいきたいと考えております。保護者の皆様のご協力をいただきながら、新しい生活様式での学園生活を築いていく所存です。本年度も宜しくよろしくお願い致します。





## 教養科 2021

教養科長

佐藤 崇徳

まずは、あらためまして新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高専での生活には慣れたでしょうか。昨年度から在籍していた皆さんには、1年ぶりに全員登校しての対面授業を始めることができました。クラスの全員が揃って同じ空間を共有しながらの学ぶことの良さを感じているでしょうか。

教養科では、昨年度末に英語の高瀬祐子先生と寮監の合田俊弘先生（英語の授業も一部担当）が退職しました。数学の遠藤良樹先生は定年退職しましたが、再雇用制度により嘱託教授として引き続き教壇に立っています。また、数学の新任教員として中村聡先生が着任しました。校長と同姓同名であるため「校長先生が数学を教えるらしい」との噂も出たようですが、3月まで日本学術振興会の特別研究員（PD、筑波大学に所属）だった若手の優

秀な先生です。教養科そして沼津高専に新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。今年度は教養科の専任教員22名、それに加えて非常勤講師21名の体制で一般科目（教養教育、工学基礎教育）の授業を実施してまいります。

また、1年生・2年生の学級担任を務めるなど、おもに低学年の学生指導を担うことも教養科の教員の重要な任務となっています。担任団では1年・2年ともに共通して次の各項目を目標として掲げることで、学生たちが高専生として相応しい充実した学生生活を過ごすよう指導しています。

- 規則を守り、自律した生活を送る。
- 自分で調べ、自分で考える学習スタイルを身につける。
- 他者と自分との違いを理解し、思いやりを持つ。
- 公共物を大切にする。

思春期の学生たちは、勉学のことのみならず、様々なことで困って悩んだり、どうすればよいか迷ってしまったりすることもあります。学生たちの成長を願い、彼らに寄り添う一方、ときには厳しい姿勢で臨むこともあります。保護者の皆様のご理解、ご協力をいただきたくお願いを申し上げます。

## 令和3年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
令和3年3月31日	遠藤 良樹	定年退職（嘱託教授に再雇用）	教授（教養科）
	合田 俊弘	定年退職	講師（教養科）
	西田 友久	定年退職（嘱託教授に再雇用）	教授（機械工学科）
	長谷 賢治	定年退職	教授（制御情報工学科）
	長縄 一智	定年退職（嘱託教授に再雇用）	教授（制御情報工学科）
	高瀬 祐子	辞職	助教（教養科）
	西垣 誠一	再雇用期間満了退職	嘱託教授
令和3年4月1日	熊谷 雅美	教授（電子制御工学科）に配置換	八戸工業高等専門学校 教授（産業システム工学科）
	中村 聡	助教（教養科）に採用	

令和3年度 校務分掌

Table with 10 columns: 区分, 氏名, 職名, 担当事務, M, E, D, S, C, L. Lists administrative roles such as 校長, 副校長, 総務副主事, etc.

Table with 10 columns: 区分, 氏名, 職名, 担当事務, M, E, D, S, C, L. Lists administrative roles for various departments like 授業改善支援センター, e-Learning推進委員会, etc.

Table with 10 columns: 学科・学級, 担任氏名, 職名, 副担任氏名, 職名, M, E, D, S, C, L. Lists faculty members and their assignments for departments like 機械工学科, 電気電子工学科, etc.

※◎は学年代表

Table with 10 columns: 教科主任, 氏名, 職名, 備考, M, E, D, S, C, L. Lists subject teachers and their assignments for subjects like 国語, 社会, 数学, etc.

令和3年6月14日現在

## 令和3年度 クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)				
陸上競技部	☆渡邊 志保美	山崎 悟史	金 顯凡		
ソフトテニス部	☆平田 陽一郎	佐藤 崇徳			
バレーボール部	☆大庭 勝久	小田 昇平	小林 美恵子		
バスケットボール部	☆鈴木 久博	鈴木 尚人	前田 篤志		
野球部	☆高矢 昌紀	香川 真人	設樂 恭平	中村 聡	熊谷 雅美
卓球部	☆芳賀 多美子	高野 明夫	黒澤 恵光		
柔道部	☆端川 朝典				
剣道部	☆新井 貴司	澤井 洋			
サッカー部	☆山之内 亘	駒 佳明	山根 説子		
ラグビー部	☆井上 聡	鄭 萬溶			
体操部	☆佐藤 誠				
水泳部	☆大澤 友克	新富 雅仁	嶋 直樹		
合気道部	☆眞鍋 保彦	横山 直幸			
テニス部	☆小村 元憲	竹口 昌之	川上 誠		
スキー部	☆小谷 進	伊藤 拓哉			
ハンドボール部	☆野毛 悟	永禮 哲生			
弓道部	☆小村 宏史	青山 陽子			
空手道部	☆芹澤 弘秀	大久保 進也			
バドミントン部	☆牛丸 真司	藤尾 三紀夫	古川 一実		
トライアスロン部	☆三谷 祐一朗	後藤 孝信			
吹奏楽部	☆藁科 知之	山中 仁	住吉 光介		
囲碁将棋部	☆鈴木 静男				
ロボコン部	☆青木 悠祐	望月 孔二			
天文部	☆大川 政志				
同好会(理工系)	☆村松久巳(機)	☆鈴木康人(プ)	☆鈴木正樹(数)	☆大津孝佳(知)	
同好会(芸術系)	☆芳野恭士(合)	☆宮下真信(軽)	☆西村賢治(大)	☆成田智子(茶)	☆村上真理(E)
	☆大沼 巧(ア)				

令和3年4月1日現在

同好会(理工系): 機械工学・プロコン・数理・知財

同好会(芸術系): 合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS・アカペラ

## 着任挨拶



### 着任にあたって

電子制御工学科  
熊谷 雅美

4月1日付で八戸工業高等専門学校より異動して参りました。八戸では、電気情報工学コースに所属し、本科高学年と専攻科の学生に対して電気回路や電磁気学などの講義および実験指導を行ってきました。沼津でもやはり高学年の学生に対して講義、実験指導を行う予定となっています。着任して1か月程経ちました。沼津も八戸も同じ高専ではありますが、いろいろな面で、予想以上の違いがあることに驚き、また戸惑いもしています。

八戸高専の前は、民間企業の研究所に勤めておりました。企業時代は、大学や国の研究機関などとの共同研究の機会に恵まれました。東京大学、北海道大学、Illinois大学、京都工芸繊維大学、物質材料機構などの先生方と、

ナノ構造半導体により新光デバイスを生み出すための材料設計に関する研究を行ってきました。最近、特に励起子のトポロジ制御というテーマで研究しています。励起子というのは、電子と正孔がクーロン力により引き付け合った状態のことを指し、これは光を生み出すという意味で光の卵のような存在です。また、トポロジというのは、幾何学の一種なのですが、通常の幾何学と異なって丸や四角などのカタチに注目するのではなく、つながり方に注目します。すなわち、1本のひもで輪を作った場合、その輪が円形であっても、四角形であっても同じトポロジを持つとされ、これらと異なるトポロジを持つものとしては、輪の1カ所を切り離れたものや、8の字型のものなどが考えられます。このようなつながり方は、ナノスケールにおいては物質の性質を決定する要素となります。この2つを組み合わせることで、全く新しい動作原理の光デバイスを作り出すことを目指しています。

全く新任らしくない新任教員ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



### 沼津高専における私の意気込み

教養科 数学  
中村 聡

本年度より教養科数学の助教として着任いたしました中村聡と申します。現在の校長先生と全く同姓同名ということで大変覚えやすい名前です。私の履歴を簡単にご紹介いたします。私は栃木県真岡市出身で、真岡高校を卒業後、東北大学理学部数学科に進学しました。当初は高校の数学の先生になることが目標で教員免許も取得しましたが、学年が上がり専門的な数学を学ぶにつれ、数学研究にどんどんのめり込んでいきました。その後、大学院に進学し数学の博士号を取得しました。(ちなみに同僚の端川先生は大学院時代の先輩で、一緒に数学の勉強会をしたりお酒を飲みに行ったりしました。今でも端川先輩と呼びそうになっています。)大学院修了後は日本学術振興会特別研究員PDとして筑波大学等に在籍し研究を続けました。そして現在、沼津高専に在籍し数学研究と教育活動の両方を行えることを大変嬉しく思っています。

さて、ここで私の学生時代の思い出を1つ紹介します。大学1、2年生の頃、数学を勉強しようという意気込みは強かったのですが、何をどう勉強すれば良いのか分からず悶々としていました。数学自体の難しさも相まって、

自分の意気込みと欲求が満たされず不安でした。意気込みだけが空回りして数学が雲の上の遠くの存在に感じました。あるとき先生にどんな本を勉強したら良いかという質問をすると、「1冊の本を一点の曇りもない状態までじっくりと最後まで読み切りなさい。かなりの数学力がつきます。」と言って、ある数学書を紹介してくれました。結果的に読み切るのに1年以上かかりましたが、この時に数学の勉強方法を会得できたおかげで、今の自分がいると思っています。

高専で学ぶ数学は科目数が多く授業のスピードも早いと思われる。でも大丈夫！沼津高専における私の使命は数学を理解したいというやる気ある学生をとことん応援サポートすることだと思っていますので、安心してください！



## 新入生から（入学にあたり）

### 目標と抱負

電気電子工学科 1年  
村松 慧 思

私の抱負は、自分の学びたい専門分野を決め、大学に編入し、それについてさらに深めることです。中学3年生の時にはパワーエレクトロニクス（電力変換）に興味を持ち、そのことについて高専で学び、大学でさらに深めていきたいと思いました。そして、環境に優しい機械を作る技術者になるということが私の夢でした。しかし、入学後の学科講話で電気電子工学科では情報分野で高い電圧を使った電気自動車を扱うこともできるようになる

と聞きました。それにより、自分の学びたいと思っていた分野が本当に学びたい分野なのかを疑い、本当に深く学びたいことを見つけたいと思いました。そのために電気電子の分野で興味を持ったことについて、自分から積極的に調べ、自分の学びたい分野をはっきりとできるようになりたいです。

また、私の目標は5年間部活動を続けることです。部活動を継続することが、将来社会にでた時に自信になると思ったからです。また、忙しい中、時間を上手に使うことができるようになると思ったからです。卓球部に正部員として入部し、試合で自分の納得がいくようなプレーができるように、部活動に励んでいきたいです。

この5年間をこれから大切に過ごせるようにがんばっていききたいです。

### 寮に入って学んだこと

電子制御工学科 1年  
中村 樫

私は学生寮に入っています。まだ入寮してから1ヶ月半程度しか経っていませんが、すでに多くのことを学びました。

一つ目は、ルールを守ることの大切さです。寮にはさまざまなルールがあります。例えば、各階にある洗濯機の使い方や寮食堂を利用する時間などです。これらは同じ階の人または、寮生が共有しているものです。ルールを守らなければ自分が困るだけでなく他の人にも迷惑がかかります。また、同じ階にいる同級生と声を掛け合うようになるため協調性も育まれ、何か困ったことがある際に助けてくれます。

二つ目は、コミュニケーションの大切さです。寮には1年生から5年生までいます。そのため、他学年と関わ

る機会が多くあり、人とコミュニケーションを取ると交流が増えます。初対面の人とコミュニケーションを取るとは難しいのではないかと初めは思いましたが、先輩方が明るく接してくださったおかげで、すぐに寮に馴染むことができました。また、勉強でわからないところを教えて下さる先輩と一緒に遊んでくれる友達ができるので寮生活を楽しく送ることができます。

三つ目は、楽しむことです。沼津高専には高専祭という行事があります。そして、もう一つ寮祭という、寮生が主体となって行う行事があります。今年はコロナウイルスの関係で一般の方が参加できませんでしたが、例年では寮生以外の人もいらっしゃいます。普段は課題や予習、役割の仕事などで忙しい高専生が思いっきり騒げる機会です。先輩後輩で協力し合って全員で作り上げていくことができ、誰もが楽しんで盛り上がる行事です。

寮生活では主に集団生活をする上で大切なことを学ぶことができます。その学んだことを活かして、人柄の良い優秀な技術者となり、世の期待に応えていきます。

### 不安と期待

制御情報工学科 1年  
細谷 真唯子

3か月前、その時私は寒さで凍えながら緊張を紛らわすため本を手に取り、寒いはずなのに手や体には汗をかいていました。2か月前、喜びとともに不安な気持ちが芽生えました。学校見学で憧れを抱いた場所に立てるといふ気持ちと、どんな生活が待っているのだろう、どんな人たちと出会うことができるだろう、と期待に胸を躍

らせながらも、自分一人で生活ができるのだろうかという陰の気持ちも心の中で抱えていました。そして昨日、思い出のある中学の制服に身を包み新しい生活に飛び込みました。周りにはこれからを共にする仲間達。一か月前の私なら眩しく見えていたであろう生活は、なかなか難しく悪戦苦闘です。楽しいだろうな、と思いつつもやはり新しい環境に不安が溢れそうです。でも、一緒に抱えていた「期待」も同じくらい大きくなっていることが感じられました。この仲間達と楽しい時間を過ごして、苦しい事も乗り越えて、共に成長していく明るい未来がまだ小さいけれどこれから進む道の先に見えます。クラブ活動、楽しそうな行事、挑戦したい事を待ち遠しく思う

気持ちと、優しくて明るい先輩、頼りになる仲間達と始まる学校生活でどんな風に成長していけるかを楽しみにする気持ちが不安に思うよりより期待を大きくしてくれました。ここにたどり着くまでにたくさんの努力を重ねることができたのは、中学の先生方、親、友人に支えて

もらえたからです。いよいよ始まる専門分野の勉強もたくさん吸収できるように頑張りたいです。分からないことはどんどん質問していきたいと思っています！

まだ始まったばかりのこの道を、一歩ずつ進みます。この先にある未来に向かって。

## 留学生から

### モンゴルから来ました

物質工学科3年  
ガバーツェデン アルタンズル

皆さん、初めまして。私はモンゴルから参りましたガバーツェデン・アルタンズルです。ニックネームはブルーです。モンゴルといえば、皆さんはチンギスハン、馬や草原などを想像すると思いますが、実は、モンゴルに東京のようなウランバートルという首都があります。モンゴルは天然資源が多い国ですが、この天然資源を開発する化学技術はあまり発達していません。ですから、私は国の資源を自分たちで開発して、色々な製品を創りたいと思って物質工学科の勉強をしています。

私は中学校を卒業するまで経済学者になりたいと思っていましたが、高校に入ってから、化学がとても好きになりました。そこで、経済学者になりたいという考えを大きく変えて、化学技術者になることに決めました。けれども、化学工学はモンゴルではあまり発達していませんから海外に留学したいと思って、色々な国について調

べました。その中で日本が化学技術が一番発達しているのので、日本で勉強したらいいと思いました。それで、私は日本に留学することを目指して、いくつか試験を受けて合格し、日本に留学できるようになりました。

私は2020年の4月1日に日本に来る予定でしたが、新型コロナウイルスのせいで、日本に来るのは8月24日になってしまいました。そして、7か月間かけて東京日本語教育センターで日本語の勉強をしました。予定の日から4か月後に来日したため、自分の日本語能力に非常に心配がありました。しかし、日本語教育センターの先生方のおかげで、日本語がわかり、話せるようになりました。

今年の4月から沼津高専の物質工学科のC3クラスに入りました。はじめは分からないことがいっぱい、困ることがたくさんありました。ですが、高専の先生方、先輩たち、同級生たちが私に優しく教えてくださったので、今、安心して高専での生活をしています。

これから3年間、自分の目標のために一生懸命頑張って、優秀な技術者になりたいと思います。よろしくお願ひします。

## 寮生会活動について

### 今年度の寮は

機械工学科4年 寮長  
細谷 優華

寮をどんな場所にしたいか。そう考えた時真っ先に浮かぶのは、誰もが入寮してよかったと思える寮です。もちろん入ってよかったと思えるような理想とする寮の形は全員違います。何をもちょうと良いとするかはその人次第です。ただ共通して言えることとして、縛られず好きなように生活したいと思うのではないのでしょうか。

私はこれまでに3年間寮生活を体験してきましたが毎年寮の雰囲気は違います。どの年にもそれぞれの良さがあります。今年度はどんな雰囲気でもどんな物語が生まれるのでしょうか。寮をつくるのは寮生会役員だけではあ

りません。寮生全員が生活して初めて成り立ち、日々が色づくものです。ですので、役職に就いていない一般寮生も自分の個性を抑え込まずのびのびいられるようにしていきたいです。

その一つ的手段としても、感染症対策を徹底しながらイベントを積極的に開催していきます。イベントのない、生活するだけの寮は寮本来の姿ではありません。イベントを開催すると初めて関わる人と仲良くなること、友達の外な一面を知ることができます。それに加えた皆さんの思い出ができます。他にも初めて経験することもあります。寮で生活するなら寮でしか体験できないものをしっかりと得ておきたいものです。

イベントのときだけではなく、そのときの寮の雰囲気を掴みながら私たちに思い出を作りたいです。

しかし、好きなようにしていたら寮の治安も悪くなっていきます。そうならないためにも日々の生活では一人

でも多くの人が集団としての意識を忘れずに、ルールを守り、他の人のことも考えられるようにしたいです。私たちもよりよい寮運営を心掛けていきます。寮運営はとも面白く複雑です。寮生だけでなく周りの教員や親、

地域住民などがいて成り立ちます。寮に関わる全ての人への感謝や思いやりを忘れないようにします。今後とも寮をよろしく願います。

## 教育後援会から

### 成長を見守っていきましょう

教育後援会会長 小澤 勉

新入生の皆様、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。昨年度は新型コロナという見えぬ敵との戦いに翻弄され、大きな制限を受けた1年間であったと思います。その戦いも相手の姿が少しだけ見えてきた状況になり、対応方法が解ってきているものの未だ制圧には至っていないのが現状です。今年度も制限を受けつつの学生生活になることは覚悟しなくてはなりません。沼津高専の場合、県をまたいで通学している学生や寮生が多く、学内・寮内でのクラスターを発生させないための対応で、授業・部活動など近隣の高校とは違う対応を取る場合もあることをご理解ください。

教育後援会においても昨年度はほとんど活動ができず、会員の方々には不本意な1年であったかもしれません。特に昨年度の1年生は全くわからないままの1年であったかと思います。リモート授業が導入されて見えてきたこととして寮のWI-FI環境が非常に悪かったため、昨年度の予算を使い環境整備を行いました。

今年度は新型コロナウイルスの流行の状況によりますが、教育後援会活動を再開していこうと考えています。教育後援会は高専生を第1に考えることは間違いないと思いますし、より良い学生生活を送るために後援会として何ができるか考え支援していきます。現在の後援会活動は教育部会・学生部会・寮生部会の3つの部会がそれぞれの目的をもって活動しています。ある時は学生の立場で学校と話をし、ある時は大人として学生への助言も必要になるかもしれません。先生方学校スタッフと協調し生活環境や教育環境を整えることを目的として活動しています。

さて、今年入学された高専生及び保護者の皆さんは期待と不安を感じながらの学生生活だと思えます。新しい生活が始まったのですから期待と不安があるのは当然のことだと思えます。でも安心してください。その先には大きく人間として成長した学生の姿があります。私も自分の子供が入学したときは立派な上級生の姿を見ると、あんなに立派になるのかと疑いましたが学校や周りの環境が成長させてくれます。私たち教育後援会はその支援で成長していく学生を見守っていきましょう、ご協力よろしく願います。

## 三つのポリシー

沼津高専の本科・専攻科では、以下に掲げる三つのポリシーに従って、教育活動を実践する。

このポリシーを基にして、教育の改革・改善に向けた検討を進める。

ディプロマ・ポリシーは、卒業認定の方針である。

カリキュラム・ポリシーは、教育課程編成・実施の方針である。

アドミッション・ポリシーは、入学者の受入れの方針である。

## 本科

### 【ディプロマ・ポリシー】

全課程を修了して167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。



- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。

### 【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（社会）に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル（以下「Level」という。）Level 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学及び自然科学（物理・化学）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学（国語）に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（英語）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

### 【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。

1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。（知識・技能）
2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。（主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）
3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。（思考力・判断力・表現力等の能力）
4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。（思考力・判断力・表現力等の能力）

## 専攻科

### 【ディプロマ・ポリシー】

以下の能力を身につけ、専攻科に2年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した学生の修了を認定する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
  - (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
  - (A-2) 「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。

きる能力。

- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢  
 (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力  
 (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。  
 (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。  
 (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力  
 (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。  
 (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢  
 (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。  
 (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

### 【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目によって編成する。
2. 一般科目を必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）に分類し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。
3. コース専門科目は選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）のみとし、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。
4. 専門共通科目を必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）に分類し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。
5. 専門展開科目を必修科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目に分類し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。
6. 設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、及び社会技術系の5科目群系に科目を分類した場合、合計6科目以上、各群系から1科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を1科目以上修得する。

上記7に関し、各能力と授業科目とは以下のように対応する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力  
 (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。  
 (A-2) 「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力  
 (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目（数学、自然科学系）、コース専門科目（新機能材料工学系）、専門展開科目（選択）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、選択科目）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目（選択）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

### 【コース別カリキュラム・ポリシー】

コース専門科目は、各コースにおいて下記の方針で編成され、実施される。

- (1) 環境エネルギー工学コース  
機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1、A-2、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (2) 新機能材料工学コース  
機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、金属、セラミックス・炭素材料、高分子、生物材料の構造や物性、材料設計作成法について包括的に学修し、B-1、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (3) 医療福祉機器開発工学コース  
機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

### 【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、学力及び経験を有する者を受け入れる。

1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。
  2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。
  3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。
- これらをこれまでの学習成果、自己申告書、推薦書、試験、面接などによって確認する。

# お知らせ

## 令和3年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、中学生その他の参加者に、沼津高専の興味のある学科や施設などを自分の目で自由に見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学の意味を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

本年度1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮見学、学生会企画及びクラブ紹介、学内施設紹介などを予定しています。また、中学生及び保護者の方に好評を得ております進学説明会は、計6回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の中学生が本校を知り、入学を志望、決意しています。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身学校の恩師・後輩又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いいたします。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、参加できる時間帯を居住地により分けて開催します。

午前の部（9：30～12：30）静岡県東部地域（富士・富士宮市除く）在住の方

午後の部（13：00～16：00）静岡県富士・富士宮市、中部、西部地域及び静岡県外在住の方

## 1日体験入学

- 日時 令和3年7月31日(土) 午前の部 9：30～12：30  
午後の部 13：00～16：00
- 対象 午前の部：静岡県東部地域（富士・富士宮市除く）在住の方  
午後の部：静岡県富士・富士宮市、中部、西部地域及び静岡県外在住の方
- 場所 沼津工業高等専門学校全域
- 実施内容  
(1) 進学説明会 (2) 各学科・専攻科紹介 (3) 学内施設紹介  
(4) 学生会企画及びクラブ紹介 (5) 学生寮見学 (6) その他
- 参加者へのお願い  
(1) 当日、体調のすぐれない方は参加をお控えください。  
(2) ご来場時にはマスク着用へのご協力をお願いします。  
(3) 適宜、校内設置の手指消毒用のアルコール消毒液をご利用ください。
- 1日体験入学ホームページアドレス  
[https://www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial\\_enrollment](https://www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial_enrollment)

## 行事予定表

## 令和3年

**8月** 1日(日) 本科夏季休業  
(7月19日から8月27日まで)  
専攻科夏季休業  
(7月26日から9月3日まで)  
3日(火) 1～4年保護者懇談会 (5日まで)  
30日(月) 本科授業再開

**9月** 6日(月) 専攻科授業再開  
10日(金) 専攻科前期試験 (16日まで)  
13日(月) 本科前期末試験 (17日まで)  
24日(金) 答案返却日  
専攻科1年生学外実習事前研修会  
27日(月) 本科後期授業開始

**10月** 1日(金) 専攻科後期授業開始  
9日(土) 全国高専プログラミングコンテスト  
(10日まで)  
10日(日) 中学生のための体験授業  
13日(水) 体育祭・学生総会  
24日(日) 東海北陸地区ロボコン大会  
27日(水) 文化講演会  
29日(金) 高専祭準備  
30日(土) 高専祭 (31日まで)

**11月** 1日(月) 高専祭片付け  
4日(木) 授業参観・学科説明会 (18日まで)  
6日(土) 東海北陸地区英語プレコン  
7日(日) 東海地区高専体育大会  
13日(土) 編入学試験  
17日(水) 3年インターンシップ説明会  
19日(金) 後期中間試験 (25日まで)  
25日(木) テクノフォーラム  
26日(金) 専攻科1年生学外実習中間報告会  
28日(日) 高専ロボコン全国大会

**12月** 11日(土) 3年インターンシップ会社説明会  
中旬 4年国内研修 (検討中)  
16日(木) 1・2年TOEIC Bridge IP  
3年CBT  
17日(金) 1年CBT  
2年特別研修 (検討中)  
3年TOEIC L&R IP  
24日(金) 短縮授業  
27日(月) 冬季休業 (1月4日まで)

## 令和4年

**1月** 5日(水) 授業再開  
15日(土) 推薦入試

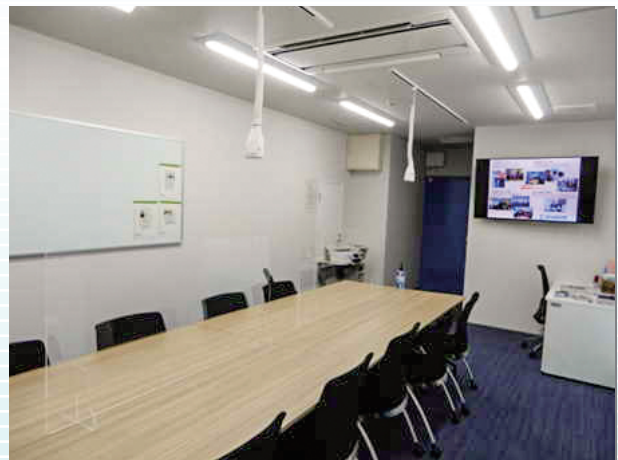
**2月** 2日(水) 5年卒業研究発表会  
(1～4年授業割愛)  
3日(木) 専攻科後期試験 (9日まで)  
10日(木) 学年末試験 (17日まで)  
専攻科1年生学外実習最終報告会  
12日(土) 専攻科2年生研究発表会  
13日(日) 学力入試  
21日(月) 答案返却日  
25日(金) 終業式

**3月** 1日(火) 本科学年未休業 (31日まで)  
20日(日) 卒業式・修了式  
22日(火) 専攻科学年未休業 (31日まで)



「沼津高専だより」に関するお問い合わせ  
出版委員会 (事務担当：総務係)

Tel : 055 - 926 - 5712 E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp



#### 沼津高専サテライトオフィス（N-com）

N-comは沼津高専、沼津市や沼津駅の頭文字“N”と、common（共有）、community（共同）、communication（交流）の“com”の組み合わせです。